

第3章 子育て・教育分野

○政策体系○

- | | |
|-----------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 子育ての充実 | (1) 子育て支援体制の推進
(2) 子育て支援環境の充実 |
| 2 学校教育の充実 | (1) 教育環境の充実
(2) 教育内容の充実
(3) 特色ある教育の実施
(4) 家庭・地域の教育力の向上 |
| 3 生涯教育の充実 | (1) 生涯学習の充実
(2) 歴史文化の活用・支援
(3) 芸術文化・スポーツの振興 |

1 子育ての充実

(1) 子育て支援体制の推進

ア 現況と課題

「秩父市子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～平成31年度）」を策定し、安心して子どもを産み育てられる「子育てをする人が子育てに伴う喜びを実感できるまち」づくりを進めています。さらに市独自の経済的支援策も行っています。

様々な支援をより効果的に展開し、子育てに対する経済的負担の軽減を図り、家庭・地域・学校・行政が連携して地域ぐるみで子育て支援を行う総合的な取組が求められています。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

医療費助成、各種手当、補助等を実施し、経済的負担の軽減を図り、子どもが健やかに成長できる環境と、安心して子育てすることのできる地域を目指します。

子育てを通じた交流の場所、子どもを気軽に預けられる場所の整備や相談体制の確立などの保育サービスを充実させます。地域の子育てコミュニティづくりを推進し、地域の中で子育て支援のネットワークの充実を目指します。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
子育て支援センター設置数	子育て支援センターの設置箇所数	5か所	6か所
ファミリー・サポート・センター会員数	ファミリー・サポート・センターの会員数	267名	300名

(2) 子育て支援環境の充実

ア 現況と課題

共働き家庭の増加等により、子育て支援に対する市民の要望は高まりつつあります。本市は、保育所（園）、認定こども園、地域型保育事業、児童館、子育て支援センター、幼稚園、学童保育室、ふれあい学校等で子育て世帯支援の充実を図っています。

施設の老朽化等により、利用環境の向上や安全対策に、より一層取り組む必要があります。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

保育所、認定こども園、地域型保育事業、児童館、幼稚園、学童保育室など施設の老朽化、児童数の増減を考慮し、民間委託なども含めた総合的な対策を進めます。ふれあい学校制度の改革により、学童保育室との一体化を図り、全ての学童を対象とした放課後総合型児童保育対策を検討していきます。

一時保育や延長保育などの保育サービスの充実を図るとともに、低年齢児保育の充実、病児保育、休日保育の実施なども検討していきます。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
放課後総合型児童保育施設の数	ふれあい学校と学童保育室の一体化による放課後総合型児童保育を実施する施設の数	—	8 か所
一時保育実施保育所（園）数	市内で一時保育を実施している保育所（園）の数	3 か所	4 か所
延長保育実施保育所（園）数	市内で延長保育を実施している保育所（園）の数	8 か所	9 か所
病児保育施設の設置数	市内で病児保育を実施している施設の数	0 か所	1 か所
公立保育所の再編	老朽化の著しい公立保育所の閉鎖	1 か所	1 か所

2 学校教育の充実

(1) 教育環境の充実

ア 現況と課題

子どもたちが一日の大半を過ごす学校においては、安心・安全で快適な学習・生活環境づくりが求められています。

学校については、老朽化したところから順次、改築・改修を実施しています。また、少子化・過疎化に伴い、平成37年には、児童生徒数が平成28年より約20%減少することが予測されています。

学校は、地域特性を活かした小規模校の長所を考慮しつつ、小規模化に伴う教育上の諸課題も踏まえ、適正規模、適正配置、統廃合も検討し、施設の計画的な改築・改修・長寿命化を行っていく必要があります。さらに、安心しておいしく食べられる給食を提供していく体制を整えることが必要です。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

教育上の課題、学校施設の状況、地域の実情及び財政状況等を勘案し、保護者や地域住民の理解を得ながら、小・中学校の適正規模、適正配置、統廃合を検討し、長寿命化を含めた施設の老朽化対策を実施するとともに、良好な学習環境の確保と児童・生徒の健康維持や安全確保を図るなど、教育環境の充実を図っていきます。

安全でおいしい給食を提供していくための施設整備や給食調理業務の民間委託を推進していきます。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
普通教室へのエアコン設置率	小中学校の普通教室へのエアコン設置率 (目標年度：H31年度)	20.7%	100%
給食調理場数	給食調理場の再配置に基づく調理場数	6 調理場	3 調理場
給食調理業務の民間委託率	民間委託調理場数/全調理場数	67%	100%
食中毒発件数	学校給食における食中毒発件数(累計)	0 件	0 件

(2) 教育内容の充実

ア 現況と課題

学校創造スーパープランを策定し、特色ある教育活動を推進し、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進しています。

基礎学力の向上とともに、知・徳・体のバランスのとれた教育を一層推進していく必要があります。現在、全国学力・学習状況調査においては、全国の平均正答率及び埼玉県の前年正答率を下回る厳しい状況にあります。したがって、学力向上に向けた各学校の取組を推進します。

また、いじめについては、未然防止を基本としつつ、どの学校、どの学級でも起こり得るという認識をもって対応する必要があります。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

学ぶ意欲を高め、考える力を養うとともに、教育方法等の研究を充実して「わかる授業」の実施に努め、家庭学習習慣も確立させ、学力向上を目指します。今後の取組としては、授業改善等について、教育委員会からの学校への支援をさらに推進します。

健康教育を推進して子どもたちの体力向上を図ります。交通安全・薬物・防犯等について具体的な指導を徹底して、安全意識の高揚を図ります。

道徳教育や福祉教育など体験を通じた学習の推進や、いじめ等を防止するための人権感覚を養う教育を充実させることによる豊かな心の育成に努めるとともに、特別支援教育の体制を整備します。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
家庭学習の習慣化の割合	アンケート調査において「小学生毎日30分以上、中学生毎日1時間以上家庭学習している」と回答した児童・生徒の割合	小 95.8% 中 61.2%	小 95% 中 80%
体力テスト県標準値を上回る種目の割合	全学年、全種目における体力テストの結果のうち県標準値を上回る種目の割合	71.4%	80.0%
規律ある態度（進んであいさつができる）児童・生徒の割合	アンケート調査において「進んであいさつができる」と回答した児童・生徒の割合	86.6%	100.0%
全国学力学習状況調査の平均値	前年度の自校平均値を上回る学校の割合	28.8%	80.0%
いじめの解消率	いじめ認知件数に対するいじめ解消の割合	89.0%	100.0%

(3) 特色ある教育の実施

ア 現況と課題

秩父市学校創造スーパープランに基づき教育活動を行っています。急速な変化を続ける社会で、子どもたちに個性を活かし、たくましく生きていく力を身につけさせるとともに、秩父の発展に寄与する人材を育てることを推進しています。

秩父ならではのふるさと学習や環境学習など、体験学習を通じた特色ある教育を実施し、児童・生徒が身近な自然や文化に親しむための機会や、教職員の資質向上を図るための機会を増やし充実させることが必要です。また、それぞれの個性に応じた不登校児童生徒への対応も重要です。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

子どもたちが地域や国際社会の一員として自信と意欲をもって活躍していくための幅広い取組と、学習意欲の向上を図るための施策を展開します。

感動する心や思いやりの心など、豊かな人間性と自ら学び新しいものを生み出していく創造性を育み、未来を担う能力を備えた志高き子どもを育成します。

教師一人ひとりの経験や専門性に応じて資質・能力の向上を図るとともに、不登校児童生徒解消を目指し、教育相談室の体制を強化します。

学校関係職員への支援や、養育する親としての学びの支援をするため、教育研究所の機能充実を図るとともに、子ども、親、教師が共に学べる場として講座等の開催を目指して推進します。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
外部指導者の活用時間数	授業で外部指導者を活用した年間の時間数	615 時間	720 時間
不登校児童生徒数	市内の不登校児童生徒数（年間30日以上欠席した児童・生徒数）	34 人	30 人
教職員研修会の参加者数	教職員を対象とした研修会の年間延べ参加者数	346 人	400 人
「ちちぶ学士」「ちちぶ博士」等の認定者数	「子どもちちぶ学士」「子どもちちぶ博士」等の延べ認定者数（累計）	1,418 人	1,600 人

(4) 家庭・地域の教育力の向上

ア 現況と課題

全国傾向と同様に、家庭・地域の教育力の低下が懸念されており、少年非行や児童虐待の深刻化、子どもの生活習慣の乱れや安全の問題等が危惧されています。そこで、学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを進めています。

家庭・地域の教育力を向上させるため、家庭教育の重要性を認識させる事業、子どもと地域住民のふれあいの場をつくる事業の展開と、市内のあらゆる団体や地域が連携して、青少年の健全育成を推進していくことが必要です。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

家庭教育の重要性を認識し、親の資質を伸ばし、子どもの基本的な生活習慣の改善と、県との連携を深めながら子育てに関する学習機会を提供します。保護者、地域の意見を真摯に受け止め、適切に対応できる相談体制の充実を図ります。

家庭・学校・地域が連携して子どもの居場所づくりを推進するとともに、町会やPTAと連携した通学時の安全確保、地域全体での親子のボアランティア活動等を支援します。

市内の学校をはじめとする青少年育成関係団体が「青少年育成秩父市民会議」を組織して、「地域の子どもは地域で守り育てる」の合言葉のもと、青少年の健全育成に向けた体制の充実と、指導者の育成と活動の活性化を図ります。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
朝食を摂っている児童・生徒の割合	アンケート調査において「朝食を毎日摂っている」と回答した児童・生徒の割合	88.6%	95%
通学路上での事故等の発生件数	登下校における交通事故・災害被害の発生件数（累計）	0件	0件

3 生涯教育の充実

(1) 生涯学習の充実

ア 現況と課題

現在、11の公民館では、400を超える主催講座やクラブ学習を、歴史文化伝承館、秩父図書館、生涯学習課では主催講座や生涯学習の推進のための事業をそれぞれ実施しています。また、学習プログラムの充実や施設整備により、生涯学習活動の環境づくりを行ってきています。

しかし、生涯学習が盛んになるにつれ、身に付けた知識や技術を地域社会の中で活かしたいと望む人々が増えているものの、学習成果を還元する機会や、その情報も不足しており、成果を活かしきれいていません。

交通の利便性や施設利用上での不都合な点も見受けられ、さらなる利用機会確保策や施設のバリアフリー化などで、市民誰もが学習できる場を充実していくことが

必要です。秩父図書館では、老朽化した施設の維持管理や適正な資料管理、不足している駐車場を確保することも必要と考えます。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

生涯学習に対する市民ニーズに応えるため、「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる機会の確保と情報発信に努めていく必要があります。また、自主的・主導的に学習を進めていけるよう各種教育事業のネットワーク化を図り、ライフステージ、ライフスタイルにあわせた学習機会を提供します。さらに、施設の老朽化対策や、現在のニーズに合わせた整備を行い、快適に利用できる環境を整え、学習成果の発表の場として「公民館文化祭」「秩父美術展」等を開催します。

そのような中で、公民館活動をより活性化し、高等教育機関・家庭・地域・学校と連携した公民館講座の開催に努めます。図書館では、遠隔地の住民サービスを充実させ、より身近で、かつ広く図書館の資料を利用できるネットワーク化を広げるとともに、移動図書館車の活用を図ります。

生涯学習の充実は、心の豊かさや生きがいのためばかりでなく、地域社会の活性化、高齢者の社会参加など、社会全体にとっても大変有意義なことから、今後も市民の声を活かした生涯学習を推進していきます。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
公民館利用者数	市内公民館年間延べ利用者人数	226,047人	230,000人
公民館・講座クラブ開催数	市内の公民館等で開催する講座・クラブ数（カッコ内は、年間延べ開催回数）	404講座 (8,678回)	420講座 (8,800回)
ちちぶ学セミナー受講者数	ちちぶ学セミナー年間延べ受講者数	1,188人	1,300人
公民館クラブ等のボランティア活動参加者数	ボランティア活動年間延べ参加者数	3,533人	4,000人
秩父図書館の利用者数	秩父図書館の年間延べ利用者数	120,942人	121,000人

(2) 歴史文化の活用・支援

ア 現況と課題

秩父地域には、年間300以上もの祭礼行事・民俗芸能が確認でき、その半数以上の行事が本市において継承されている一方、今日の社会の環境変化は地域文化の伝承を困難なものとしています。

少子・高齢化に伴う後継者不足や資金不足から継承が危ぶまれる伝統芸能・民俗行事をはじめとする文化財に対しては、記録保存や後継者養成など保護保存の対策を講じ、後世に伝える必要があります。

また、本市は、歴史的・文化的資源に恵まれ、多くの指定文化財を保有しています。その一方、未調査あるいは詳細な調査が必要な歴史的・文化財的資源が数多く残っています。これらの調査を行ない、保護保存や普及に努める必要があります。さらに、あらゆる学習活動を通じて次代へ伝える場を創設し、歴史的・文化的資源

の活用を図る必要があります。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

地域文化を正しく次代へ伝えるために、記録保存事業の実施と新たな担い手の発掘のため、後継者養成の伝承活動を支援します。

歴史的・文化的資源となる基礎資料の取集と調査を実施し、文化財などの保存と活用を図るとともに、埋蔵文化財の調査と保護思想の普及を図ります。

地域の歴史・民俗を周知・伝承する場、市民・観光客が「秩父」を知るための場の創設を目指します。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
活動を停止した地域文化継承団体	地域に伝承されている民俗芸能の活動、継承を終了した団体数（累計）	1 団体 ^{※1}	0 団体 ^{※2}
市事業への民俗芸能出演団体数	市及び市教育委員会開催事業へ出演した民俗芸能保持団体数（累計）	28 団体 ^{※1}	15 団体 ^{※2}
地域文化の記録件数	生活文化、祭事行事、伝統芸能について、映像、写真、文書等で記録した件数（累計）	11 件 ^{※1}	9 件 ^{※2}
普及講座等開催回数	主催講座・教室、企画展、講師派遣等の回数（累計）	22 回 ^{※1}	5 回 ^{※2}

※¹ 第1次計画期間10年間の件数。

※² 今後5か年の目標件数。

(3) 芸術文化・スポーツの振興

ア 現況と課題

本市は優れた芸術家を多く輩出しており、多くの市民が様々な芸術文化活動を積極的に行っています。また、伝統芸能も誇り高い優れたものが数多くありますが、市民にそれぞれの素晴らしさが認識されていないので、発表する機会を創出して、広く発信する必要があります。また、東日本大震災後、芸術文化活動の練習や発表に使用する施設が不十分です。

スポーツに関するニーズの多様化が見られる中、ロードレース大会やペタンクなどの特色あるスポーツ振興を展開しています。スポーツ少年団や地域の青少年育成会などでスポーツに親しむ青少年も多くみられます。

一流選手・指導者を招いてのスポーツ教室を開催し好評を得ています。

ハード、ソフトの両面について、多様化したニーズに対応できるスポーツ環境づくりが必要です。

イ 施策の課題解決に向けた今後の取組

平成28年度に完成する「秩父宮記念市民会館」は、「つながる」「はぐくむ」「とどける」をコンセプトに、誰もが芸術文化活動を通して学び・憩い・集い・交流できる場を提供します。本市独自の伝統芸能や芸術文化を素材とするなど、秩父ならではの芸術を継承していく拠点施設としても期待されます。

また、市内における芸術文化に関する情報を「ちちぶ芸術祭」として一元的に集約し、効果的に発信して、市民が芸術文化に触れる機会を創出します。

今後も、各種助成金の活用や国の振興策を研究して、芸術文化全体の振興と市民芸術文化レベルのさらなる向上を目指して推進します。

スポーツ施設の老朽化や機能充実に対応するための整備・改修を図り、適切な維持管理を行い、施設の有効活用に努めます。

スポーツ人口の拡大を図るとともに、市民の年齢や適性に応じたスポーツ活動の内容充実を努め、幅広い年齢層の参加に加え、青少年の健全育成を目的とした活動を促進します。

ウ 施策推進のため、達成目標とすべき指標

指標名	指標の定義	H26	H32
ちちぶ芸術祭参加イベント数	ちちぶ芸術祭として参加する年間イベント数	58件	70件
秩父宮記念市民会館自主事業数	秩父宮記念市民会館自主事業として開催する年間イベント数	—	10件
スポーツ施設利用者数	市内のスポーツ施設利用者の合計の年間延べ人数	480,035人	500,000人
チャレンジデー参加者数	15分間運動した人数(5月最終水曜日)	45,221人	50,000人